

アジアの友

The Asia-no Tomo

10-11

OCTOBER-NOVEMBER

2018

Special Interview 鈴木 妙さん

「私の日本語教授履歴とブラジルの日本語教育事情」

故 工藤（萩野）正司さんを偲ぶ会開催される

新星学寮建替え竣工 内覧会を開催



第17回ABK秋祭りを開催



2018年10月27日（土）、今年で17回目となる「ABK秋祭り」を開催しました。年々注目度が上がるこのお祭りですが、今年も近隣の方々や卒業生などを中心に500名を超えるお客様が来館され、留学生たちが腕を振った各国料理と、舞台上で繰り広げられるパフォーマンスの数々を堪能しました。



アジアの友

2018年10・11月号 第535号

目次

	Special Interview
2	鈴木 妙さん 「私の日本語教授履歴とブラジルの日本語教育事情」
	工藤さんを偲ぶ
12	故 工藤（萩野）正司さんを偲ぶ会 開催される
13	工藤正司さんへのインタビュー映像より（2016年12月9日）
16	工藤さんの思い出（関係者ご挨拶）
	ご報告
28	新星学寮建替え竣工 内覧会を開催
30	新星学寮建替え募金（2018年10月31日現在）
31	知友会通信
32	MEMBERS

<お詫びと訂正>

本誌前号（第534号）6頁のハノイ大学の説明に誤りがありました。ハノイ大学は国立大学ですが、説明は別の国家大学のものとなっていました。関係の皆様、読者の皆様に慎んでお詫びを申し上げますとともに、下記の文に置き換えさせていただきます。

国立ハノイ大学は「ハノイ外国語大学」を前身とし、日本語などの各外国語学部をはじめとした多数の学部を擁する国立総合大学。高い教育レベルと整った学習環境から国際交流も盛んで、世界20か国以上の教育機関と連携、大勢の留学生在が学んでいる。

<表紙> 2018年ABK秋祭り(10月27日)
に出席するタイチーム

Special Interview

私の日本語教授履歴とブラジルの日本語教育事情

鈴木 妙さん (Ms. Tae SUZUKI ~ブラジル)

言語学博士 元サンパウロ大学日本語日本文学コース教授・日本文化研究所所長

鈴木妙さんは、日本留学時代の1970年秋から1972年の大学院修士課程卒業まで、アジア文化会館（ABK）に住んでいました。大学を停年で退き、少し時間ができたので、この秋、久々の日本旅行を計画して来日されました。また、この10月からご子息が日本留学のためABK学館日本語学校に入学し、ABKに暮らしてる様子をみに立ち寄られました。短い日本滞在の貴重な時間を拝借し、長年ブラジルの大学で日本語教育に携わられてこられた鈴木さんのお話を伺いました。なお、鈴木さんは今年の日本政府の秋の外国人叙勲で、「ブラジルにおける日本語教育及び日本文学・文化の普及を通じた対日理解の促進に寄与」した功績を称えられ、旭日中綬章を受章されています。



サンパウロ大学日本語日本文学コース（日本語講座）の第1期生
卒業後日本留学、お茶の水女子大学
国語国文学科では初めての留学生

サンパウロ大学の日本語日本文学コースの第一期生で、学部を卒業したのは1968

年です。ただ私はもともとやりたかった法科大学にも通っていて、こちらを69年に卒業した後の1970年に日本政府の国費留学生としてお茶の水女子大学（以下、お茶大）の修士課程に留学しました（1970年4月から72年の5月まで）。

サンパウロ大学日本語日本文学コースから初めて日本の大学へ派遣された学生でし

た。私が入学したお茶大の国語国文学科も留学生を受入れたのは私が初めてでしたから、知らない者同士、いろいろ試行錯誤しながらがんばったという感じです。

お茶大大学院での授業は、1年は演習、もう1年は理論だったのですが、運悪くと言いますか、私は演習の年に入学してしまった上に、国語国文学の学生はたった3人しかいませんでした。しかもそれは万葉仮名の授業でした。私は懸命にノートをとって勉強しましたが、夏休みにおさらいをしてみたら、自分がノートに書いたことがさっぱりわからなかったんです。それで指導教官に電話をして、これでは意味がないのでブラジルに帰りますと言ったんです。すると、教官は「まあまあ、お茶でも飲みながら話しましょう」と言って、私の



来日後初めての文部省のガイダンスで（手前）

（日本語教育関連略歴）

1968年 サンパウロ大学日本語日本文学コース卒

（1969年 法科大学卒）

1970年 日本国費でお茶の水女子大学大学院国語国文学科修士課程に留学

1972年 同上 卒業

1972～75年 サンパウロ大学日本語日本文学コースのボランティア教員

1975年 サンパウロ大学正規教員（助教授）

1985年 サンパウロ大学言語学博士取得、日本語日本文学コース教授

1987～92年 サンパウロ大学日本文化研究所副所長

1992～94年 / 1996～2003年 サンパウロ大学日本文化研究所所長

1996年 神奈川大学・日本常民文化研究所の網野善彦先生の下でポストドク

2003年 サバティカル休暇でフランスのストラスブール大学へ。客員教授

～2007年 ストラスブール大学で日本語を教える

2005年 サンパウロ大学退職

2007年 フランスから帰国

2009～2015年 ブラジリア大学文学部外国語・翻訳学科日本語コース教授

2015年 ブラジリア大学定年退職

2018年 日本政府より秋の外国人叙勲で旭日中綬章を受章



お茶大の寮の友達と（後列左）

お茶大の同期生と（左から3人目）

話を聞いてくれました。とても温厚で優しい先生で、「大丈夫、あなたががんばっているのはよく見えています。そのうち目から鱗が落ちたようにわかるようになりますから」と言われました。それじゃあもう少しやってみようと思い、それから2か月ほど経った時「ああ、先生はこの観点で話をされているんだ」という所まで、なんとかわかるようになったんです。それで、少し安心して残りの1年半がんばれたと思います。

研究の系譜を手繰ると

サンパウロ大学で最初日本からの客員教授に教わったのが1969年で、先生に何を勉強したいのかと聞かれた時、私は具体的に説明ができず、今使われる日本語が説明できるような研究をやりたいと答えまし

た。私は古典の“こ”の字も知らなかったものですから、竹内先生（竹内美智子、最初の客員教授）が特訓で古典語を教えてくださいました。

そして私はお茶大に行って指導教官に何をやりたいのかと聞かれたとき、今の日本語をしっかりおさえないので、古い言葉をやりたいと言ったんです。ただどの時代の何をやりたいのかと聞かれても説明ができませんでした。すると先生から、それなら中世のキリシタンものをやればいいと言われて、天草版平家物語に出てくる敬語の分析というのをやりました。それで私の研究テーマは敬語になったわけです。

言語から社会、社会から歴史というふうに関係に私の中では流れていきました。言葉と社会がどういうところでクロスできるのかが見えてきた。そうした研究をしているうちに、中世を抑えた方が良いのではないかと

思い、後に中世史が専門の日本常民文化研究所の網野先生にご指導をお願いしたんです。平安までは遠すぎて届かないから、中世辺りに今の日本の源流が育ったのではないかと、浅はかに考えたわけです。



ABKにて職員とブラジル人在館生（右端）

サンパウロ大学人文学部東洋語学科日本語日本文学

コースで教え、大学の日本文化研究所の副所長、所長を歴任・兼務し、そしてフランスへ、最後はブラジリア大学の教授として

お茶大で修士号を取得して、1972年サンパウロ大学に戻りました。そしてサンパウロ大学には72年から75年まで、ボランティア教員として在籍し、75年に正規教員（助教授）として採用されました。そして教員をしながら同大学の博士課程に入り、言語学分野の研究をして、84年に博士号をとりました。

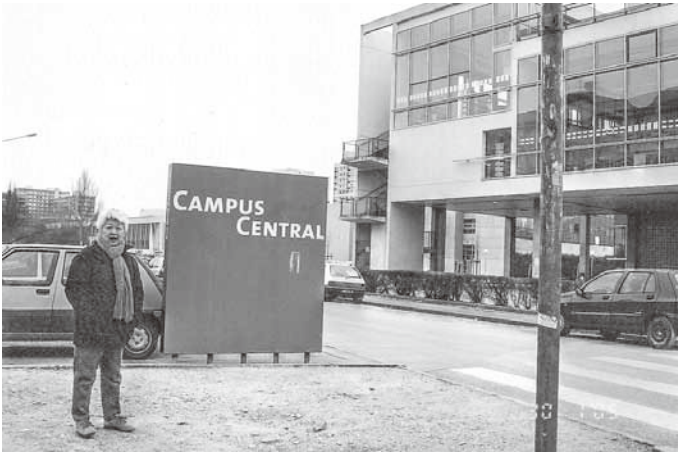
その後サンパウロ大学人文学部東洋語学科日本語日本文学コース教授として2005年まで勤めることになります。また、この間1987～92年にはサンパウロ大学日本文化研究所の副所長に、1992～94年及び1996～2003年には所長を歴任し、日本文学、日本の歴史、日本文化等の普及にも力を注ぎました。

また、サンパウロ大の任期途中の2003

年にサバティカル（大学教員の為の研究休暇）でフランスのストラスブール大学に行き、客員教授として日本語を教えました。フランスには短期間の予定で行っていたので、研究プロジェクトは終わりましたが、フランスのほうが面白くなったということもあり、また、一緒に行ってた息子の教育のこともあり、どうしようかと迷っていました。実は、息子がブラジルに帰国して現地の高校に行く場合、フランスと入学時期のずれがあり、また息子はまだフランス語も中途半端でしたから。

そうこうしていると、ストラスブール大学の方からもう1年いてくれないかという声がかかりました。それならば息子もフランス語が上達するのではと思い、サンパウロ大学とかけあって、そこでサンパウロ大学を退官して、2007年までフランスに残りストラスブール大学で日本語を教えていたわけです。

フランスからサンパウロに戻ってからしばらくは宙ぶらりんで過ごしていたのです



フランス・ストラスブール大学構内で

が、首都ブラジリアにあるブラジリア大学に教授の席が空き、2009年から教えることになりました。そして2015年に退職するまでそこで日本語を教えていました。

お父様の鈴木悌一さんとサンパウロ大学の日本語日文学コース及び日本文化研究所について

当初のサンパウロ大学日本語日文学コースには東京外国語大学（外大）との提携で、外大のポルトガル語コースを卒業した先生お二人が、それぞれ2年ずつで合計4年間、1966年まで日本語を教えに来ていました。彼らは交換教師といって、サンパウロ大学からも外大にポルトガル語の先生が派遣されていたわけです。

私はまさにその時の学生だったのですが、彼らは日本語の専門家でなかったことが一つ、もう一つは2年ごとに交代してし

まいますから、これでは日本語日文学コースは強くないということで、父に声がかかったんです。

父は日本語や日文学の専門家ではないのですが、たまたまサンパウロ大学の人文学部長が父と大学の同期だったということで、教えに来てくれないかと父に声をかけた

わけです。ですから立ち上げたというのではなく、軌道に乗せたといった方がいいでしょう。

父はサンパウロ大学に、70歳で定年退職になる1981年までいました。父の大学における業績としては1968年にサンパウロ大学に日本文化研究所を創設したことだと思います。父はブラジルに日本研究を根付かせるには、まず日本から客員教授を呼ぶこと、そしてきちんとした図書館を整備することだという考えの下、研究所をつくりました。研究所が出来たおかげで、日本から一流の先生が来てくださり、個人的な指導まで受け持ってくださいったんです。

最初はO T C A（Overseas Technical Cooperation Agency；海外技術協力事業団）、その後国際交流基金に変わりましたが、この2つの組織が客員教授のプログラムを支えてくださいました。おかげで図書館も基本的な文献を揃えることができ、私たちも一流の先生から個人指導まで受ける

ことが出来ました。設立当初はまだ大学院は設立されていませんでしたが、大学院レベルの授業をしてくださいました。

父は、留学で鍛えられるのは留学した本人だけだが、専門家の先生を呼べば二人なり十人なり、もっとたくさんの学生を鍛えられると考えていました。

当初は2名の客員教授が1年から2年の任期で派遣されていましたが、今では一学期ごとに来ていただき、大学院で教えていただいています。1人の先生がブラジルにいるのは3か月くらいですが、その間にサンパウロからリオやブラジリア等の日本語講座のある大学にも行って講義をするという形になっています。

サンパウロ大学は今でもブラジルの 日本語日本文学研究の中心

そうですね。日本語専攻の大学院（日本語・文学・文化）があるのは今でもサンパウロ大学だけです。ただ取得できるのはマスター（修士）までなので、私と同世代の者はほとんどが一般言語学とか、文学理論学とか、演劇学といった日本語学とは違う分野でドクター（博士）をとっています。

ですから私のドクター論文は、敬語についてで「ブ

ラジルにおける日本語の敬語と日本で使われている敬語の比較研究」です。社会言語学の観点からの研究で、言語学科でドクターを取得しています。

サンパウロ大学の日本語日本文学 コースの特色は

初期の頃、父の考えだと思うのですが、父はわりとクラシックが好きな人間だったので、ラテン語だとかギリシャ語だとかにすごく興味があったわけです。それで、日本語も古典をしっかりおさえないとダメだ、文法もしっかりやらないといけない。文学をやるにも古典文学を知っておかないといけないという考えでした。ですから、サンパウロ大学は今のブラジルにおける大学の中では、すこし古典的アプローチだったといったほうがいいかもしれません。

父は、ブラジルで本当の日本文化を伝え



サンパウロ大学の日本文化研究所

るには研究しかないと思っていて、研究者を育てるコースとして考えられたのがサンパウロ大学の日本語日本文学コースなんです。ですから、サンパウロ大学というのは他の大学に比べて堅いんです。でも、そういう大学が一つはあっていいと思います。

また、サンパウロ大学では「大学は語学コースではないんだ」というのが決まり文句でした。日本語をやる以上はまず読み書きをやらなければいけない、会話は日本に行ってからでもできるという考えでした。基礎をしっかりやって日本へ行けば、一か月で話せるようになるという考えで、読む方に時間を割いていました。

今の大学を見ると話す方に重点を置いています。だから、私が最後に教えたブラジリア大学に行った時は、同僚とだいぶぶつかりました。私は日本語の構造はどういうものなのかということをおさえるのがまず先だという考え方なので、どうしても文法中心になってしまいます。ブラジリア大学は、教師を育てるコースで、全然方針、出発点が違います。



日本文化研究所の図書室にて（左側）

大学に新しくできる日本語コースというのは全て教員養成講座です。だから研究のための日本語講座というのはサンパウロ、リオ（リオデジャネイロ）くらいでしょうか。リオグランデ・ド・スルという南の州にも一つあるのですが、ここは翻訳専門です。そのあと出来たのが、パラナ、ブラジリア、アマゾナスですが、この3つは全て教員養成講座だと思います。そこで勉強すると教員の資格がとれる。サンパウロとリオの場合は、専門と養成と2つのコースがあります。

その理由として、これは日本語とは全く関係ないのですが、中高で教える先生の給料が悪いので先生が減ってしまったため、国の教育政策として新たにコースを開くのなら、教員養成講座を、という流れができたわけです。

もちろんそうした課程から本格的な研究に進みたいということで、サンパウロ大学の大学院に進学する学生もいます。

大学に新しくできる日本語コースは
教員養成講座が多い

大学の日本語教材は

サンパウロ大学で教え始めた時、国語学が主流で、国文法を取り入れて教科書を作成したものを使っていました。サンパウロというのは日系人の多い街で、日本語が分かる人が大部分でしたから、読めなくても話はできた。だから国文法でもよかったわけです。でも今の若い日系人は日本語を家では喋らない。知っている言葉は限られたものだけということで、日本語の構造からはじめないといけないんです。

それでブラジリア大学を辞める直前に、日本語学の文法に国語学の基本的なものを取り入れた文法書を仲間とポルトガル語で作りました。

日本語学だけでは説明し切れないものが日本語にはある。国語学の文法ではそれをおさえている。日本語学ではここまでは出来るけど、ここから先は説明が難しいという複雑な文章でも、国語学では説明がつくわけで、それは取り入れなければいけないという考えです。

一方で、ブラジリア大学では2学年までは「日本語初歩（凡人社）」を使っていました。フランスでも同じものを使っていますが、フランスでは1年間で「日本語初歩」を網羅します。ですからブラジリア大学で2年もかけるのは時間をかけすぎだと

思います。もう少し早く終わらせて、残りの時間で読む力を付けなければならないと言いつけたのですが、叶いませんでした。でも最近は「まるごと」（「まるごと 日本のことばと文化」）を採用したと聞きました。

学生が日本語を学ぶ目的は

今は漫画を原文で読みたいという人が多いです。漫画のおかげで日本語を選ぶ学生の数が多い。フランスでもそうでした。フランスは日本に次ぐ漫画国ではないかと思うほど日本の漫画は人気があります。漫画専門の本屋さんまであります。だから漫画、アニメから入ってくる学生がほとんどなのではないかと思っています。

ブラジルには日本語ブームというのが2つあります。一つは1980年代後半からの経済ブームで、それが下り坂にかかったところに漫画、アニメブームというのが来て、



ブラジリア大学の同僚と

この人気はいまだにあまり衰えていません。だから大学の語学コースの中では日本語の生徒数は良い方なんです。定員を割って、コースが開けないという心配はないと思います。

一方で、韓国語コースというのはまだ珍しくて、やっとサンパウロ大学に出来たところなんです。今はK-pop 人気から韓国語を勉強したいという学生が増えています。

語学学習の動機は経済か大衆文化か、ということですね。

大学における日本語教育とは

私は大学で教える日本語と語学学校で教える日本語は違うと思います。大学という所では日本語だけではなく、日本文学や日本文化史、日本史などについて、紹介だけでもいいからやらなければいけないと思っています。

ところが今の傾向を見ていると、大学が語学学校同様に実用的な日本語を教える場になっているのではないかと思います。

世界的な傾向として、今の若い人たちはインターネットを使いすぎる世代です。私たちは問題を出されてそれについて考えて結論を出さなければいけないという勉強をしてきたわけですが、今の学生を見ていると結論だけなんです。情報はたくさん知っているけれど、なぜそうなったかということが説明できない。

私は学生に、家でレポートを書いてこ

いとは絶対に言わないようにしていました。というのは、図書館に行って調べるのではなくて、インターネットで引いてきたものをコピーして文章にしているというケースが多いからです。だから私はテーマを与え、参考文献リストを渡して家で考えてこいと言って、教室で書かせるようにしていました。

大学では考える力を伸ばしてやるべきだと思います。学生からは「どうしてここまで説明しないとイケないのか」とよく文句を言われました。それに対して、私は「説明できないのは理解していないからだ」と答えていました。

今は日系、非日系関係なく日本語を学んでいて、例えばブラジリア大学では、各クラスに一人か二人しか日系人はいません。だから非日系の数がぐんと増えたというのは、それだけ日本という国が知られてきて、日本の経済成長や今の日本文化の面白さを覗いてみたいという人たちが、日本語を学ぶ学生の主流を占めているのだと思います。

また日系人にとっても、日本語はもう親から受け継いだ言語ではなく、外国語としての日本語という存在になりつつあるのだと思います。

現在の活動について

ブラジリア大学退官後、今はサンパウロに戻り、翻訳の仕事や日本文化を紹介する教室などの仕事をしています。

1996年に私は神奈川大学の網野善彦先生にお願いして、神奈川大学の日本常民文化研究所にポストドクター（ポスドク）として半年間お世話になりました。

そこは渋沢敬三のアチックミュージアムを受け継いだ研究所で、民俗学や歴史、文化人類学などの専門家が一緒になって研究をするところで、簡単に言えば庶民の生活を研究するところです。

そこの網野先生に頼まれて、現在、日本社会の歴史に関する本をポルトガル語に翻訳しています。

もう一つは、ずっと大学で教えてきたことをもう少し一般の人にわかりやすく話をするという活動です。ブラジルは日系移民も多いのですが時々おかしな解釈をされた文化が紹介されていますから、もう少しきちんとした日本文化史、日本を一般の人にも紹介したいと昔から思っていました。そうした時、たまたまボランティア活動をお手伝いした主婦グループの方から日本史に関する話を聞きたいという話があり、それじゃあ半年くらいやってみようと思ったものが、未だに続いています。

またその一環としてブラジルの移民史講座や、映画化された日本の小説を読んで、また、その映画を見てフ



リーディスカッションをやるという、一般人向けの日本を紹介するコースも行っています。こうしたコースに参加する人はほとんどが日系2世ですね。

（終）



ブラジル移民の分布は？

1500年にポルトガル人がブラジルを発見。以降ポルトガルの植民地としてポルトガル、スペインからの移民が16世紀頃からブラジルに入ってきていて一番大きな勢力になっています。（1822年独立）そして、奴隷解放があった19世紀の終わり頃からイタリア、ドイツ、日本からの移民が入ってきました。

私が住む東南部、サンパウロ以南はイタリア人とドイツ人が多いです。ブラジルの南部は移民が一番多く入ってきたところです。サンパウロの隣のパラナ州は日系人が多く、パラナから隣のサンタ・カタリナ州はドイツ系が多く、イタリア系はあちこちに混在しています。イタリア、ドイツ、日本がポルトガルとスペインに続く民族で、そのほかにもポーランド、アラブ、ロシアなどからの移民がいます。

故工藤（萩野）正司さんを偲ぶ会 開催される



元（公財）アジア学生文化協会常務理事で、今年7月2日に逝去された工藤（萩野）正司さん（享年75歳）を偲ぶ会が11月10日（土）、東京・本郷のルヴェンヴェール本郷で開催されました。偲ぶ会には、寮友（新星学寮、蒼生寮）の皆様をはじめ、アジア文化会館元留学生の皆様、大学時代の友人、協会関係者約70名が集い工藤さんを偲び、思い出を語り合いました。

偲ぶ会は、元新星学寮生のベトナムのダオ・ユイ・アンさんの司会で始まり、アジア学生文化協会白石理事長の挨拶、アジア学生文化協会の活動を長年共に担ってきた小木曽前理事長から工藤さんを偲ぶお言葉と献杯をいただきました。その後シンガポールの符祝慧（フー・チュー・ウェイ）さん編集による工藤さんの写真とインタビュー映像が流され、偲ぶ会に参加された会の実行委員、元留学生、学友の皆様からの工藤さんの思い出とお別れの言葉をいただき、最後に工藤夫人からのご挨拶をいただきました。

本誌では、工藤さんのインタビュー映像の内容と関係者のご挨拶および寄稿を掲載させていただきます。



工藤正司 くどうまさし 1943年5月、山形県に生まれる。1966年3月、東京大学工学部電気工学科卒。1968年3月、東京大学大学院修士課程卒（専攻は電子工学）。在学中に穂積五一氏の主宰する学生寮「新星学寮」に入り、ベトナム等アジア諸国の留学生の問題に遭遇し、日本とアジア諸国に横たわる歴史的・社会的問題に関心を深め、人生航路を変える。1968年4月、穂積氏創設の（財）アジア学生文化協会に入職。様々な留学生問題に取り組む。また、戦後初来日する中国人研究者・留学生のための大森寮、マレーシアのルックイーストポリシーで来日する留学生のためのブンガラヤ寮、故太田宇之助氏が日中友好のため東京都に寄贈した土地に作った東京都太田記念館など数々の学生寮の立ち上げに尽力。そのほか相談事業、機関誌『アジアの友』の編集、日本語教育などABKの事業全般にかかわる。創設者・穂積五一氏の遺稿をまとめる作業に20年を費やし、『アジア文化会館と穂積五一』を出版。著書に『留学生と日本・人』（1999）『時間の研究—物理学的時間の幾何学』（2003）『時間解析学』（2006, 改訂版2014）

工藤さんを偲ぶ

工藤正司さんへのインタビュー映像より

インタビューアー 符 祝慧（2016年12月9日 新星学寮にて）

符：穂積先生と初めて会ったときの印象は？

工藤：初めはね、穂積先生に反発していたんですよ。特に寮内にね、過激派がいたの。その過激派にね、ひとりひとり挨拶しろって言われたの。それで僕は穂積先生をコテンパンにやっつけてやろうと思ってね、そのちょっと前にね、穂積先生が新しい人（新入寮生）を呼んでくれて、お茶をご馳走してくれたんです。そのときに言ったのが、就職する頃になるとみんな変わっちゃうんだよと言った。それで学生は自由だと言っているけどね、みんな就職の頃になると変わっちゃうと言って、そうして穂積先生が言うにはね、食事会ということになると、みんなね、リンゴの皮の剥き方も知らないで、本当に恥ずかしいと言ったんですよ。僕はね、山形ではね、だいたい皮のまま食べるから、皮なんか剥かない。フォークとナイフの使い方も知らないと言ったんですよ。「人間の価値はフォークとナイフの使い方を知らないということだけで決まらない」と言ったんですよ。それで穂積先生をコテンパンにやっつけたつもりになっていた。ところがそのときの寮長だった児玉さんという人がね、「工藤、穂積先生を批判する人は必ず穂積先生にまいっちゃうよ（やられちゃうよ）」と言ったんですよ。そんなばかなことはない、僕はそのとき思ったけどね、だけどやっぱりまいっちゃったんですよ。

符：工藤さんはどうして当時、チュアさん^(※1)

のことを助けなければならなかったと思ったのですか。

工藤：その時来てくれたのはチュアさんとヘンさんです。ずいぶん深刻だったと思うんです。話だけ聞いてそれでおしまいにしてしまっているのかなと思ったわけ。日本国費留学生は本当は文部省の留学生課長が保証人をする事になっているのです。その時の話では、文部省が本人を調べることもしないので、文部省に抗議をする文章を書いたんです。

この前、映画会^(※2)があったでしょ。あのとき僕は泣いちゃったね。本当に困っちゃった。チュアさんは本当に千葉大の学生たちに助けられたと思いますよ。千葉大の学生は本当にチュアさんと連帯してね、戦ったね。それはすごいですね。その頃の学生にはアジアの人たちと一緒に生きようという、そういう精神があったのかもしれない。だけどその後どんどん無くなっちゃって、今のようになっちゃったんですよ。その当時はね、千葉大の学生が全校あげてねチュアさんを助けたんですよ。千葉大学の学長がね、「だめだ」といっても言うことを聞かなかった。それはやっぱりね素晴らしいことですよ。それで僕は泣いちゃったんです。

符：当時の留学生の立場、状況は厳しいものだったのですか。

工藤：当時の留学生のピザというのは今と全然違った。全部一度ね、ピザを入管に預けてそれから手紙が来て、「あなたはOKになり

ました」という手紙がね、ハガキがね、それまでは、みんな取り上げられちゃうんじゃないかとみんな心配したんですよ。

工藤：市民運動をやっていたときのことを見ると、ベトナム留学生のブー・タット・タンさんの件、それはチュアさんの事件のすぐあとに起こったんで

す。ブー・タット・タンさんは東大の経済学部の学生だった。それで彼はパスポートとか大使館からもらえないんですよ。パスポートというのは本国からくるものでしょ。本国がブー・タット・タンさんを指名してパスポートをあげないことにしたんですよ。そしてそれが理由も何も言わないんですよ。それで僕たちはおかしいと思ってね、理由も何も言えないような弾圧の仕方はないだろうとね、抗議したんですよ。

ブー・タット・タンさんの署名を広島の人々が1000名の嘆願書をもってやってきたわけ。そのときはね、寮はまだぜんぜんやっていなかった。広島の人々が挨拶をしたときにね、「帰ってからまたやります。広島で署名を集めます」と言ったんですよ。それで僕はね、なんとなくね、広島で1000名署名ならばね、東京は10万人ぐらい必要じゃないかなと思って、言っちゃったわけ。そしたら穂積先生がね、「いま工藤君、10万人って言ったな。10万人と言った以上は一人でも欠けてはいけませんよ」と言ったんですよ。それで、僕は「あーっ、しまった」



インタビューに答える工藤さん。新星学寮にて

とそのとき思ったけれどもね。言っちゃった以上はね、じゃあ10万人集めようと思った。そのときは先生が、工藤くんならば言ってもいいかもしれないと思ったのかもしれないけど、そう言われた以上はね10万人を必ず達成しようと思ったんです。

符：当時、次から次へと留学生にまつわる事件が起きていて、それを支援する上で、恐ろしいとか怖いと思ったことはなかったのですか。

工藤：全然ない。むしろね、10万人集めるためにね、「看板はなくても署名はできる」とかね、面白いことを言っていた人がいたんですよ。「看板はなくても署名はできるよ」と。だから今日も御茶ノ水の駅前に「署名を集めに出かけていきます」と言って出かけたものです。

符：蒼生寮^(※3)もベトナム戦争のときに作ったものですね。

工藤：そうですね。ベトナム戦争で、それぞれの人が命がけでやって…、自分たちが命を

かけないで、生活をかけないでやらないということはおかしいということがあってね。そのとき北海道見学旅行をやっていたんですけども、その北海道見学旅行というのは、お金は東大のアジア学生友好会が集めていたんですけども、東大と名前をつけたのはね、そこを指導した先生が東大の工学部の先生だったんですね。東大の学生が就職のときにみんな集めるんですよ。学生を一人でも多く紹介すればね、助かるんですよ、会社の方がね。それで就職を斡旋した先生が言えば、必ずお金を出さなければならぬ、会社はね。そういう仕組みだったんですね。それで大企業からお金をもらって、北海道見学旅行を続けていくのはおかしいと、言われて転換したわけですね。それはベトナム戦争の影響が強くていたと思います。

符：工藤さんにとって、一番いいと思う時代はどの時代ですか。

工藤：自分たちが寮に入った頃が一番、寮の典型的なことをやれていた時代じゃないかなと思っているんですけど、それが一番いいかどうか、つまり、自分で思うに、もっともっと私のような人間が出て良かったと思うけど、多くの人は自分の専門が大事だと言って、それぞれ専門のところへ就職しましたね。だから人生が変わるほど寮から影響を受けなかったと言えるのかもしれませんが。人生が変わるほど寮から影響を受けることが大切だと思っています。

符：やはり日本人の学生にもこの寮に入って欲しいですね。

工藤：そうですね。ここで、留学生を理解して、

アジアを理解する日本人が多くなることは大切なことだと思っているんですけど、それが人生が変わるほど変わらなければ、ちょっと理解したぐらいでは、全く意味のないことだと僕は思いますね。

符：つまり、寮に入って住んで日本社会に入っ
て普通の日本人になるということは残念だと思
っているんですね。

工藤：そうですね。そういう面と、何とい
うのかな、アジアを理解したと言うけれど
もね、その程度のことで理解したとい
うことにはならない、つまり日本というのは
アジアを、何というのかな、日本はアジア
を餌にして生きているんですよ、いつも、
日本という国が。その部分をどうするつも
りか、そういうことを考えると人生が変わ
らないではいけないはずなんですね。日
本という国はアジアを考えると絶えず
市場としてしか考えない。ヨーロッパなん
かはね、政治を考えるでしょ。（日本は）ア
ジアに関しては、物が順調に売れさえすれ
ばいいんですよ、政治がどうあろうと関係
ないんですよ。ところがアジアこそ政治が
大切なんですね。そのことを言いたいと思
います。

（※1）チュア・スイリンさん事件…本国の英領マラヤ
のマレーシア連邦独立反対運動の先頭に立った千葉大
学国費留学生のチュアさんは、文部省より国費留学生
の身分を取り消されてしまう。この処遇に対してABK
関係者や千葉大学の学生たちが抗議の声を上げた。詳
しくは本誌 No.532 をご覧ください。

（※2）「留学生チュアスイリン」（1965年 土本典昭監
督作品）

（※3）新星学寮寮生による新寮建設運動で1969年
12月誕生

工藤さんを偲ぶ

工藤さんの思い出（関係者ご挨拶）

小木曾 友さん

前（公財）アジア学生文化協会 理事長
元新星学寮生



工藤正司君のことを思うと、私の心に浮かぶ一つの言葉があります。それは「義人」という言葉です。これはそもそもは、新約聖書に記述され

ているパウロの言葉で、信仰上の特別な意味を持った言葉ですが、私たちが普通に使う義人の意味は、広辞苑に「堅く正義を守る人。わが身をかえりみずに他人のために尽くす人」のことと出ています。

こういう人を近代史の日本人の中にさがし、あえて一人を挙げるとすれば、それは田中正造です。尾尾銅山鉍毒事件に抗議し、日比谷で明治天皇の乗った馬車に向かって「お願いがござりまする」と直訴した政治家ですね。それから寮関係者の中からであれば、穂積五一先生、そして、先生の一番の心の友であった西光万吉さん。日本の部落開放・社会運動家、全国水平社設立の中心人物で、水平社宣言の起草者として知られる方です。また村山富市元首相もその一人であると思います。最近の日本人、特に政治家の中には義人といえる人が見あたりなくなりましたが、ごく最近、日本人の中

に「義人」を発見して、心が少し明るくなっています。例えば、アメフトの悪質タックル問題で、たったひとりで記者会見に臨み堂々と正しい意見を述べた日大の宮川泰介君。そしてまた、山口県の周防大島で行方不明の子供を一人で見つけたボランティアの尾畠春夫さんなど、「義人」と呼べる人たちがほつほつ現れ始めていることです。

私は工藤君も義人の一人に加えたいと思います。工藤君とは彼が大学生の頃から50年以上の付き合いがあり、個人的には欠点も多い人でしたが、アジアの留学生の心に寄り添い、全人生をかけた支援の姿勢・生き方は、義人の名にふさわしいものであると信じます。彼が最後まで執念を燃やしていた新星学寮は、これからの日本とアジアにとって寮を大切だと思える元寮生の留学生や日本人寮友の献身的な努力によって見事に新しく建設することができました。新しい新星学寮は寮、ABK、そして大きくはアジアの中の日本の進むべき道を指し示す羅針盤の役割を果たす事ができると期待しています。

工藤君よ、長い間ご苦勞様でした。ゆっくりお休みください。

山本 章治さん

元日立ソフトウェアエンジニアリング（株）
取締役、元新星学寮生

1967 年から 1969 年の二年間新星学寮に在



寮しておりました山本章治と申します。もう50年ほど前のことになります。私は、寮に入る前には、社会のことに

関心なく過ごしてきました、アジアのことなど考えたこともありませんでした。どんな寮かもわからず入寮したわけです。

私が入寮した2年ほど前から工藤さんは寮におられました。寮生活で工藤さんと一緒に居た世代の者として話をさせていただきます。

寮に入ったら、工藤さんが折に触れてされる話が新鮮で面白く、そして次第に社会やアジアに対して開眼させてもらうようになりました。

当時、工藤さんが特に迫力を持って取り組んだ2つの運動について紹介をしたいと思います。「プー・タット・タンさんを守る会」と「新寮（蒼生寮）建設運動」です。

「この運動が工藤さんのその後の活動の原点だよ。」と、ある人に言われました。

一つは、私が寮に入ってしまったら、ベトナム留学生のプー・タット・タンさんが強制送還されると言う問題が発生しました。当時は、激しいベトナム戦争が続いており、寮にもベトナムからの留学生がたくさんいましたが、その多くは帰国することが危険な状態にありました。また、ベトナム反戦運動も活発になっていました。プーさんは新星学寮の寮生ではありませんでしたが、プーさ

んの強制送還を阻止しようと、工藤さんが寮に「プー・タット・タンさんを守る会」を組織しました。工藤さんは迫力を持って取り組み始め、殆どの寮生がそれについて行きました。毎日のように署名活動に参画し、そのためのビラの作成、印刷などが深夜3時、4時まで連日続きました。当然大学の授業などそっこのけです。

週刊誌「女性自身」の記者がこの活動に賛同してくれて記事を何回も出してくれました。署名活動してる工藤さんや私などが写った写真もグラビアで掲載してくれました。グラビアを見て達成感がありましたが警察官だった私の父が見たらどう思うかなあ、と心配にもなりました。その甲斐もあってか、プーさんは強制送還を回避されました。

この活動が、工藤さんがそれからアジアに深くかわり、その後の道が変わった契機だと感じます。

次に新寮建設活動（蒼生寮）について触れておきます。

当時、新星学寮ではそれまで恒例行事として2年に一回、北海道旅行と言うのを企画、実施して来ていました。留学生20名程度と共に北海道を旅行し、見聞を広め交流を行い、お互いの理解を深めるのが目的だったようです。費用は寮生が企業などから寄付を集めて工面していました。プーさんが強制送還されることもなくなり、活動が収まったその年の暮れになって、次回の北海道旅行の計画を立てる時期になり、準備活動が始まりました。その時、工藤さんが「北海道旅行はやめて、新しい寮を建設しよう」と言い出しました。



アンさんによる司会で開会



白石 ABK 理事長の挨拶

突然の提案にビックリ仰天ですね。

その考えは、「寄付に頼る」といった「他力的」な活動から、「自主的」な「社会に直結」する活動に取り組むことに切り替えようという考えです。自主的な活動とは、資金は自分たちでアルバイトなどで集めて寮を作ると言う考えでした。工藤さんからその建設委員会の委員長をやれと私は言われて引き受けてしまいました。

その年は、多くの大学で大学闘争が激しさを増し、多くの大学が全学ストなどになった時期でした。授業に行くこともなくなっていましたので、みんながアルバイトや討論に明け暮れる毎日となりました。あくせく一年ほどやったのですが、結果としては中途半端で、私は卒業となり、寮を出た時には目標には遥かに届かず、委員長としては失格のまま卒寮しました。その後工藤さん、ABK が何とか工面をして蒼生寮はオープンされました。

卒業後、私は会社に勤めましたが、折につけ寮に足を運び工藤さんを訪ねいろいろな話をし、かつ教えてもらいました。時にはお酒も入りました。工藤さんは日本酒が好きでしたね。これまで40年間、素晴らしい先輩として付き合ってもらい、勉強させていただきました。

本当にありがとうございました。

川上 剛さん

ILO 労働安全衛生専門家
元アジア文化会館（ABK）在館生

私は1984年から5年間、ABK 学生フロアに住まわせていただき工藤さんからたくさん教えを受けました。計宇生さんや、符祝慧さんたちと同期です。先ほど新星学寮の先輩方が、チュアさんやブーさん支援の

運動と工藤さんの
献身的な活動につ
いて話されました
が、私たちが学生
の頃にはあまり劇
的な出来事はなく
てまた学生運動も



下火になっていました。しかしその分新
星学寮に習って、ABK 学生フロア内部にお
ける自治と共同生活を充実させようとして
いたように思います。というのは、今でこ
そ ABK の建物も古くなってしまいました
が、当時は学生寮として立派な設備の建物
で、自分の部屋に入ってしまうと共同生活
的な部分がないのではという批判があった
からです。週1回学生フロアミーティング
を開き、また在館学生と職員が共同で運営
について話し合う場として毎月1回金曜日
の夜に「ハナ金会」がありました。「ハナ金
会」では自分たちで用意した料理を食べな
がら、学生フロアの課題について話し合っ
ていました。そんなとき、工藤さんはいつ
も目をつぶって腕を組んでうなずきなが
らじっと聞いて、私たちの議論を見守って下
さいました。

ある時、ABK 学生フロアでも文集を出
そうということになりました。新星学寮に
は「のろし」という伝統ある寮誌がありま
したからそれに習ってということ。とこ
ろがその文集のタイトルを何にしようかと
みな困ってしまいました。そこで、ハナ金
会の場でひとりひとりに紙切れを配って、
何でも思いつくままに案を書いて出し合

うということになりました。ある留学生
が、確かマレーシアのアン・クイチャンさ
んだったと思いますが、「外観録」という
案を思いつきました。もちろん穂積先生の
「内観録」にちなんでです。よく覚えてい
るのですが、その「外観録」という案を
聞いた途端に、普段はもの静かな工藤さん
が満面の笑みで「外観録、賛成！」と手を
あげて叫びました。他のみんなももちろん
賛成で、これで学生フロア雑誌のタイトル
は「外観録」となりました。工藤さんはと
てもうれしかったようでその後の「アジア
の友」にも、「留学生の創造力に脱帽」と言っ
て紹介しています。

またある時、ABK で穂積先生のお化け
が出たということがあり、学生フロアでも
うわさになりました。怖い話としてではな
く、もちろんうれしい話としてです。後で
工藤さんから聞いたのですが、ABK に一
時滞在されていたタイからの女性宿泊者
の方が、早朝に日課のメディテーションを
されていた時に、髪のない老人が「生きとし
生けるものみな平等です。」と植木に水を
やりながら言っていたとのことで、ぜひそ
方にお目にかかりたいと受付に来られたそ
うです。当時白髪の職員は永田隆彦さんと
工藤正司さんで、早速お二人が受付に來ら
れてその女性に会われたが違ふとのことで
した。そして、ふと誰かが思い至り理事長
室にお連れてして穂積先生の写真をお見せ
すると、彼女は満面の笑顔で私が早朝見た
人はこの方だとおっしゃられたそうです。
彼女は ABK 滞在中毎日先生のお写真の前

にお香を上げたとのこと。工藤さんはこの話をしながら「川上君、僕はお化けとか信じてるわけじゃないんだけどこの話は心に残った。」という意味のことをおっしゃいました。こうしたご縁もあり、その女性のお子様は後に ABK の日本語コースに入学されたそうです。

工藤さんは本当に真っ直ぐに生きて穂積先生の理念を忠実に実行しようと、現実の中で悩みご苦労されていたと思います。そして、私たちにこれから ABK と新星学寮をどうするのか、あるいはアジアと日本の関係をどうするのかという大きな問いかけを残したまま逝ってしまわれた気がします。これらの問いかけに答えるために、工藤さんは私にとって過去の人ではなく今もこれからも生きています。その上で、工藤さんが自身を貫く生き方ができたのは、何よりも奥様とご家族、そして ABK 職員の皆様の理解とサポートがあったからだと思います。私は現在 ILO (国際労働機関) というところに勤務していて「ワーク・ライフ・バランスが大切です。」と立場上言っており、私自身もそう思っています。今思い出しましたが、先ほどの ABK 学生フロア文集の「外観録」に「職員の皆さんはいつも遅くまで仕事していて本当に頭が下がる。でも、奥さんが逃げだすんじゃないかと心配だ。」と失礼ながら思わず書いてしまったのを覚えています。

工藤さんがさらにご存命でまた穂積先生
がもし今の時代に生きていたらしゃった
ら、私たちにどんな発言をされ、またどん

な行動をされただろうか」とつい考えることがあります。日本とアジアの共存共栄、人間的和合という基本理念は不変ですが、現在の複雑で多様なアジア情勢の中でその実現のために何をすべきかと。その意味で、私はこれからも心の中の工藤さんと対話を続け教えていただかなければならないと思っています。

[illegible]

ト・ブー・ルーンさん

(株) ビロタス代表取締役
FUII 教育基金代表、元蒼生寮生

ベトナムのト・ブー・ルーンです。今日は工藤さんを偲び、工藤さんの思い出をいくつかお話ししたいと思います。



まず、最初に工藤さんのことで思い出すことは、私が農業を学ぶため東京農大に留学していた頃のことです。その頃はベトナム戦争で北爆が激しくなっていた頃で、東京周辺にいたベトナム留学生がベトナム大使館までベトナム戦争に反対し、南の政府の弾圧に反対するデモをよく行っていました。1969年ベトナム留学生20数名がベトナム大使館で「ベトナムの平和と統一」を求めるデモを行ったため、うち3名に帰国入隊令が、全員に本国からの送金停止等の

処分が出されました。帰国すれば命がどうなるかわからない状況でした。メンバー24人(日本政府国費・私費留学生)は、パスポート無効のまま日本在留の延長申請を行いました。メンバーの中には新星学寮の寮生もいたので、新星学寮では「ベトナム留学生支援の会」がつくられ、支援活動を行ってくれました。そうした我々に新星学寮、アジア学生文化協会は様々な救いの手を出してくれました。その時に工藤さんは、いつも我々に付き添って入管(入国管理局)に行き様々な交渉を粘り強く続けてくれました。そして、ついに法務省から「今後違法な政治活動を行わない」という条件が出され、それに合意して、在留延長を認めてもらうことができました。その時のことは今でもよく覚えてます。決して忘れません。私たちベトナム留学生にとって工藤さんは恩人だと思っています。

工藤さんは、我々の手助けをする前には、ABKにいた東大4年生だったブー・タット・タンさんがやはりデモが原因で法務省から国外退去強制令が出た時に、新星学寮で「ブーさんを守る会」を立ち上げ(1967年)、来る日も来る日も新宿の街頭に立ち10万人の署名集めを行っていたことも先輩から言い伝えられています。

次に、工藤さんとは僕が1972年に蒼生寮に入ってからよく会う機会があり、お世話になりました。工藤さんは蒼生寮に住んではいませんでしたが、蒼生寮の勉強会には必ず来てくださり、いろいろな話をしてくれ、相談にのってくれました。

勉強会では、ベトナムの問題、勉強のこと、在留のこと、生活のことなどいろいろ話し合われましたが、工藤さんはどんな質問でも丁寧にわかりやすく説明してくれました。勉強会の後は楽しい飲み会で、みんなリラックスしてより打ち解けました。蒼生寮は、新星学寮生の発案で、新寮建設運動として当時の寮生、その後の寮生の協力(アルバイト等)で造られた(購入した)寮ですが、日本の古民家で大部屋には鍵もなく本当の大家族と一緒に暮らしている家のような寮で、当時の僕たちお金にも厳しいベトナム留学生が生活するには大変助かりました。また一緒に住んでいた寮生にはいろいろ手伝っていただきました。苦楽を共にした寮生たちは真の友人として今もその関係は続いています。

工藤さんの話はいろいろありますが、最後にもう一つ。私が留学した1960年後半頃は、まだ留学生の数も少なく、日本の留学受入制度も充実していませんでした。留学生にとって日本語の問題だけでなく大学の入試、入学先を探すことも大変な時代でした。工藤さんは、そうした大学受験をするベトナム留学生を各地の大学に連れて行き入学させてくれたことも、お世話になったベトナム留学生は、今でも感謝していることをお伝えしておきます。

多くのベトナム留学生が工藤さんには大変お世話になりました。全人生を留学生のために頑張ってくださいました。本当にありがとうございました。

符 祝慧さん

シンガポール「聯合早報」東京特派員
元 ABK 在館生／新星学寮在住

1980年代、留学生だった私はABKで工藤さんと会いました。留学生の間では工藤さんの「微笑み」はシンボルでした。工藤さ



んはいつも、黙々と留学生やその友人のことをお手伝いしている方です。私がすごく工藤さんにお世話になったのは近藤（ABK職員 近藤昇氏）と結婚する際、父親に反対されたとき、私たち二人の相談役でした。工藤さんは奥様の実家の成田のお寺で仏前結婚を提案し、実現していただきました。あの時、もらった念珠は今でも大切に収めています。

また、1990年代後半、およそ9年間、工藤さんがいる新星学寮で家族連れで暮らししました。工藤さんの寮に対する愛着は誰よりも深いとしみじみ感じました。彼の部屋にはよく悩みを持っている留學生が訪ね、いろいろ話しました。娘の縁も、よく近藤に怒られると工藤さんの部屋に逃げ、工藤さんを「シェルター」として働かせていました。

工藤さんは厳しい話題を聞くと目を閉じます。工藤さんが怒った印象は唯一学生たちが玄関で抜いだ靴を靴箱にしまわないときでした。話によると、これは穂積先生が

いたころからの慣習で寮の玄関を綺麗に維持するためです。

工藤さんは数多くの寮を立ち上げたそうです。マレーシアの先輩リーコンさんから、今でも工藤さんが1980年代、マレーシア国費留学生のためブンガラヤ寮を作ったことを聞いています。あの時代、留学生が部屋を借りるときは保証人が必要で、日本の社会で留学生の住まいを確保するのはそう簡単ではありませんでした。工藤さんのお別れ会に東京にいて出席したリーコンさんは、当時工藤さんがマレーシアの留学生たちのために寮を作ったことを大変感謝していました。

今回のお別れ会に、遠方で出られなかったり、あるいはお知らせのメッセージが届いていなかった留学生たちが大勢います。ちょうど出張で東京にいたミャンマーのキンキンさんがお別れ会に来ました。「工藤さんに手を合わせなくて」とおっしゃいました。

工藤さん、ほんとうにお世話になりました。

計 宇生さん

国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究
系教授、元 ABK 在館生

国立情報学研究所の計字生と申します。ちょうど40年前に始まった中国の改革開放後、中国政府派遣学部





留学生の第1期として、1980年3月に来日しました。

私が初めて工藤さんにお目にかかったのは、留学で日本に到着した日です。当時、中国政府派遣の留学生が学部生約100人、訪問学者が数百人の規模で一気に来日しますので、住むところが大きな問題になっていました。そこで中国大使館の要請を受け、アジア学生文化協会が急遽、大田区大森に作ったのが大森寮でした。日本に到着して、空港からバスで大森寮に着いたところに、田井さん、小木曾さん、工藤さんたちが出迎えてくださいました。

始めて工藤さんにお会いした時の印象は、いつもにこにこしていて、大変優しく接してくださいました。今でも鮮明に覚えています。その時に、工藤さんが自分の大先輩で、東京大学の電気工学科を出ておられることを知りました。

その後、大森寮が男子寮になり、私は下宿

等を経て、約2年後にアジア文化会館（ABK）に入りました。実は、ABKに入る前に一回、ABKの入館募集に応募したのですが、国ごとの人数制限で入れませんでした。その約半年後に、今定員に空ができたので、もう一回応募してみませんか、と、工藤さんからの電話連絡をいただき、再度応募して入館できたのです。そして、ABKで6年間お世話になりました。

実は、ABKにいる時に、「時間」のことについてずっと考えていらっしゃるということを知ったことがありました。先ほどのインタビューのビデオを見て、工藤さんはもともと物理の研究をやりたかった人なのだとことをとても納得しました。優れた理科系の才能を持っておられたので、「時間解析学」のようなむずかしい本を執筆されたのだと思いました。

ABKでは、月に一回の「花金会」や、毎年の学生フロアの旅行、新年会などの活動で

は、職員とそこに住む学生の交流が盛んであり、そこにいらっしゃる工藤さんはやはりいつも大変優しく、にこにこしておられました。さきほどの小木曾さんのご発言に「義人」というお言葉がありましたが、工藤さんは本当に他人に優しく、自分に厳しい方でした。私の妹も ABK の日本語学校でお世話になっていましたが、妹も工藤さんのことを、いつもにこにこしている優しい方という風に話しておりました。

留学生受入れのご指導に全力で携わってこられて、もう少しご自身のご健康にも気を遣っていただきたいと思います。本当に残念です。元留学生として、工藤さん、そしてお世話になった ABK の職員やその他の方への感謝の念が尽きません。工藤さん、どうぞ、安らかにお眠りくださいませ。

~~~~~

寄稿

ダオ・ユイ・アンさん

COPRONA 株式会社代表取締役社長  
元新星学寮生

私が新星学寮に入寮したのは2004年4月で、修士課程の2年間在籍しました。しかし、実は工藤さん、そして寮とはその1年前に出会っておりました。つまり大学3年生の時でした。私のベトナムの恩師であるグエン・ドック・ホエ先生から



新星学寮の話聞いて、募集があるからというので行ってみました。古い建物だけど、中は温かいし、そこに住んでいる人達も良く分からないけど、どこか普通じゃないという印象がありました。書類審査と面談を経て、無事に入寮かと思いきや事件が起きました。つまり、当時私はまだ学部3年生で部活（バトミントン）をやっていました。部活は週3回水金の夜に駒場キャンパスに行き練習しているので、月曜日の夕食会には出られないということが判明したのです。そこで、私が入寮を辞退するという事でその場は収まりました。

ただ、入寮はしないものの、住んでいるアパートは寮とは目と鼻の先なので、その後、たまに顔を出したり、工藤さんに相談に乗ってもらったりもしました。工藤さんに相談にのっていただいたのは、卒業設計のテーマでした。私は建築学科でしたので、卒業設計があるわけですが、よりによって私は学生寮をテーマにしました。もちろん工藤さんからはいろんなことを教えてもらい、大変助かりました。

後に入寮してから、ある時工藤さんの部屋で飲んでいて、工藤さんの学生時代の話となり、ご自分の卒業設計（工藤さんは電気／電子専攻でした）の話をしてくれました。友達に頼んで二人が一斉に図面の両端から描いていくと真ん中で合うはずのディテールがずれてしまったというエピソードでした。それを聞いて、自分の卒業設計のことを相談する相手を間違ったのではないかと吹き出したことをまだ今でも鮮明に覚えています。





工藤さんが著した「解析時間学」

私の入寮の辞退事件の後、寮生の中では「アンは悪いやつではない」という評判もあったようですし、ちょうど部活も卒業したということもあり翌年の寮の募集に再び申し込み、満場一致で晴れて入寮することができました。そもそも寮は満場一致じゃなければ入れない場所ですからね。

寮に入ってから、当然ながら同じ屋根の下に住むので、思っていた工藤さんと違う工藤さんが見えることになりました。入寮前の工藤さんはユーモアのある優しい人という印象でしたが、入寮後見えてきた工藤さんはそれに厳しさが加わってきて、そして何よりも驚いたのは広い知識を持っていることでした。とにかく何を相談してもきめ細かく丁寧な説明、解説が返ってくるのです。ただ、みんなで決めたルールは徹底的に守らせるわけですから厳しさはいうまでもありません。

私は入寮した時はあまり穂積先生のことが

よく分かりませんでした。工藤さんが折に触れて穂積先生の話をしてくれましたので、大まかのことは分かるようになりました。何か相談した時には、「昔はこうでした」ということから始まり、流れの中で行きつくところはいつもだいたい寮の話や穂積先生の話になります。たまに、なんで血のつながりもなにもないこの私に対してこんなにも丁寧に昔話をしてくれるのかなと不思議に思うくらい、工藤さんは昔の話をいつも熱心に話してくれました。そうした時、工藤さんが私に何かを伝えたいという気がしなくもなかったのですが、鈍感な私にはそれがどれくらい伝わったのか、知る由もありません。

実は工藤さんはなんでも話してくれましたが、私に秘密にしていたことがあります。私の知っている限り少なくとも2件あります。それは、私のことを関係者に頼み込んでくれたことです。頼まれた方から言われて初めて知ったわけですが、私はそれを聞いて涙を禁じ得ませんでした。血のつながりもなにもないこの私に、なんで？と。その2件の中の1件は私が会社を起こした後のことでした。会社の監査役を引き受けてくれたタムさん（島村文心さん）がベトナム学生を支援する奨学会を運営していますが、その関係のセミナーがABKで行われるということで、弊社の役員の一人が参加しました。役員がそこで工藤さんと会って、挨拶をして私のことを話し、「そういう会社なのでよろしくお願いします」と言おうとした時、逆に工藤さんから先に「アン君のことをよろしくお願いします」と言われて、



岡部洋一さん



杉本幸信さん



工藤夫人 (萩野さき子さん)

役員もびっくり仰天したそうです。

私は工藤さんにたくさんのことをして頂きましたが、自分は工藤さんに何もしてあげることができませんでした。しかし、例えばその機会があったとしても工藤さんはそれを許さなかったと思います。だから私は、自分の後輩に対してその分の恩送りをするだけでしか工藤さんへの恩返しができないと思っています。自分は工藤さんと同じようには多分できませんが、自分なりのやり方でそれを実現したいと思っています。後は、工藤さんの著書であるあの「解析時間学」の本をなんとかしたいと思っています。何とかするというのは専門家に検証してもらうということです。その本には純粋な「科学者・工藤正司」が活着していると思います。量子学にも応用できると本人が言っていたから、そうに違いないと思っています。(合掌)

東京、2018年晩秋

## 近藤 昇さん

(特非) ベトナム子ども基金理事長  
元蒼生寮生／新星学寮在住

私は1968年からベトナムで難民支援やホームレスの子供たちのお世話などのボランティアをしていたので

すが、父が入院することになり70年末に帰国したんです。それで、救援活動もいけれど何か日本で平和のための仕事ができないかと考えていたのですが、なかなか見つかりませんでした。

そんな時、あるベトナム人留学生から連絡がありました。彼は私がサイゴンで子供たちの面倒を見ている時に、何人かの友達と一緒に子供たちに勉強を教えに来ていたグエン・ミン・タンさんで、高校卒業後日



本に留学して、蒼生寮に住んでいたんです。それでぜひ会いたいというので、彼を訪ねて寮に行ったんです。それで工藤さんと出会いました。

工藤さんはその日はお休みで、どてら（丹前）を着て蒼生寮の2階で本の整理をしていました。それで私は二人と話したのですが、タンさんとの話はもちろん、工藤さんとの話もすごく面白かったんです。

私が日本に帰ってから話す日本人からはいつも「大学を卒業して2年、3年も経つんだから、いい加減就職するとか嫁さんをもらうとかしたらどうか」というようなことしか聞きませんでした。ところが蒼生寮に行ったら全くそういう話にはならなくて、ベトナムの人たちがいかに苦しんでいるか、我々に何ができるのか、日本で苦勞している留学生の役に立てないのか…、たちまちそういう話になってしまったものですから、私はすぐ「あ、ここだ!」と思ったんです。それで工藤さんに誘われるがままに、すぐ蒼生寮に入ることを決めてしまいました。ウイスキーの空ボトルがずらりと棚に並んでいたのも、ここはいいなあと思った理由の一つですね。

とにかく工藤さんは自分の利益になるようなことは何もしないんです。いつも一所懸命留学生のために生きていました。私はそんな工藤さんをずっと尊敬していました。

ある時期、蒼生寮の勉強会で毛沢東の実践論、矛盾論を勉強していました。そのうち実際に労働者の中に

入って実践をしないことには、労働者の生活や感性、思想といったものはわからないということになって、みんなで労働の現場に入ろうということになったんです。それで工藤さんも ABK を辞めて、小企業の設計士になり、私は半年ほど溶接を学んで工場に入り、他のメンバーもそれぞれ現場に入りました。

結局、私は1年ほどで工場が倒産して蒼生寮に戻り、工藤さんも間もなく ABK に呼び戻されました。そして私は工藤さんの誘いで大森寮、太田記念館、ABK、新星学寮と、各寮を転々とするようになりますのですが、そういう工藤さんの勉強会や実践は、頭がシンプルな私には大きな影響がありました。

とてもいい友達であり、リーダーであり、威張ったり、無理やり人に何かをさせたりすることは全くありません。ただこの人と一緒に進んで行きたい、この人のためにがんばろうという気持ちになれる。そういう工藤さんに出会えたことに、心より感謝しています。



# 新星学寮 建替え竣工 内覧会を開催



テープカットの様子



新しい新星学寮



玄関



2F 廊下



1F オープンキッチン

2011年3月の東北大地震とその後多発する地震に老朽化した木造の寮に不安を抱く寮生も出る中、当時寮代表として寮生の指導・相談等行っていた工藤正司氏が寮友へ呼びかけ、「新星学寮の建替えを考える会」を2014年9月に発足させ、第1回会合持つ。その後回を重ね、途中耐震診断を受け、建物の脆弱性がより明確になり建替えを決議する。2016年8月からアジア学生文化協会と建替え実現に向け新たに「新星学寮建替え検討会」を発足、より具体的な話し合いを重ね、2017年5月、寮友への説明会（総会）を経て建設、募金等決議される。2017年11月から旧新星学寮及び故穂積五一先生の居宅を壊し、2018年1月初頭より建築に着工。予定通り6月中に竣工するが、その後、外構工事等を経て2018年11月10日（土）に内覧会を開催する運びとなった。

内覧会には、寮友（新星学寮 OB・OG）をはじめ寮建替えにあたりご寄附をいただいた賛同者の方々、協会関係者、それに近隣の方々延べ約70名の方が来会された。

内覧会は、14:15より新しい建物の玄関前でテープカットが行われ、その後、1階の大広間にて式典が行われた。式典はアジア学生文化協会白石勝己理事長の挨拶、続いて、寮友でこの度の「新星学寮建替え検討会」の新星学寮穿設と募金の呼びかけ人代表」の一人、杉浦正健氏（元法務大臣；1955-57在寮）のご挨拶と穂積先生と昔の寮の貴重な話があり、そして乾杯は、年長の寮友で「検討会」に休まず参加され発言されてきた井上駿氏（1955-57在寮）の音頭で行われた。



式典で



挨拶をする杉浦正健氏



乾杯の音頭を取る井上駿氏

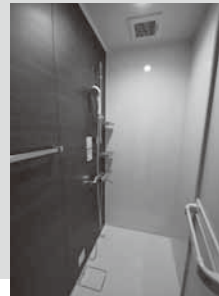


挨拶をする白石勝己協会理事長



洗面台

シャワールーム



また、旧新星学寮、寮生、寮代表として長年寮にあった工藤正司氏の写真が、符祝慧さん（1997-2006 年在寮）編集によるスライドショーで流された。

なお、内覧会当日までにいくつかの家具の搬入が間に合わなかったが、一定の家具のそろった2階、3階の個室、洗面所、シャワー室、トイレ、1階のオープンキッチン周り等、内覧会に訪れた方々は各々に、あるいは検討会のメンバーに案内され見学された。

※ 内覧会を終え、検討会のメンバーは、来年の4月から寮生を迎える新寮生募集等の準備に入っています。新築後初めての入る寮生は、推薦と公募の二本立てで実施することが決まりました。関係者のご推薦をお待ちしています。

## 新星学寮建替え募金

2018年10月31日現在 33,482,520円



募金期間：2017年12月～2019年3月

< 2018/9/1～10/31 寄付者 > 安藤法夫、岩井秀生、小川サヨ子、小木曾建、栗原静子、許鴻輝 (Koh Hwee Hong)、河野真、杉浦義昌、野田春美、真弓忠、本村博志

寄付者：計200名

(あ) 秋庭一衛、厚見利子、新井かよ子、新井良文、安藤哲夫、安藤法夫 (い) 家田文隆、池森亨介、石川清、市村幸男、伊藤順、伊藤源之、稲垣史、井上駿、今西淳子、岩井秀明、岩井秀生、岩尾明 (う) 上野長一、内田誠、宇戸清治 (え) 江口義弘 (お) 大越英男、大木隆二、大杉立、大田原康彦・真澄、大野大平、大益牧雄、小川巖・サヨ子、小木曾建、小木曾友、奥山節子、小倉美恵子、小田中聡樹、小野澤史、小野ちず子、小野寺武雄 (か) 加瀬勝子、勝部純基、加藤福和 (Đinh Văn Phước)、金子新平、金田和子、鹿野快男・博子、川上剛、川口善行、川崎依邦 (き) 菊地満寿美、城戸康通 (く) Nguyễn An Trung、Nguyễn đức Hòa、Nguyễn Ngọc Duyên、Nguyễn Hồng Quân、Nguyễn Thái、Nguyễn Tiến Quang、Nguyễn Văn Ân/Đỗ Văn Dũng、Quách Đình Huân、工藤 (萩野) 正司、工藤幹雄、久保哲也、熊沢敏一、倉内憲孝、栗原静子 (け) 計宇生・孟令樺 (こ) Ngô Diêu Ké、許鴻輝 (Koh Hwee Hong)、河野真、高秉澤 / 姜英園、五島文雄、小林正治、小林孝信、小宮信介、小山芳江、是澤優、近藤恵子、近藤壮一、近藤昇 (さ) 斉藤泰生、三枝辰男、榊正義・正子、笹村出、佐藤正文、佐藤亮一・説子 (し) 重田誠一、清水国夫、清水勇治、徐世傑 (Chee Sze Keat)、尚捷 (Shang Jie)、白石勝己、代田泰彦、新宅光 (す) 杉浦貴和子、杉浦正健、杉浦義昌、鈴木智、鈴木典之、須藤妙子 (せ) 関川弘司、関谷操男 (た) Đào Hữu Dũng、田井良知、田井亮吉、ダオ・チ・ミン (Đào Thị Minh)/ ト・ブー・ルーン (Tô Bửu Lương)、高橋作太郎、高橋滋、高野靖子、竹治智、田中克江、檀良 (Đặng Lương Mô) (つ) 佃吉一、土屋元子、鶴尾能子、鶴園裕 (て) テイ・メン・フェイ (Tay Meng Fei) (と) Dương Văn Quả、Trần Thanh Việt、Trương Văn Tân、Trần Văn Thọ/Tuyết Minh、Trần Việt Hùng、(一社) 東京華僑総会、外山経子、寅野滋 (な) 中島明彦、中島純司、永井和子、永井ひろみ、中曾根信・不二、中野正明、中島正喜、中原和夫、永山寿子 (に) 西岡佐代子、西川恵 (の) 野田春美 (は) 萩原伊助、浜崎永壽、濱屋悦次、林均 (ひ) 永高律子、平峯克、広江重徳 (ふ) Phạm Vũ Thịnh、Phan Văn Ngân、Vũ Mạnh Huỳnh、Vũ Tất Thắng/Vũ Thị Tuyết、Huỳnh Mùi、符祝慧、福壤二、福井弘之、福本一、藤原一枝、布施知子 (へ) ヘン・フ・チョン (Heng Fu Chong) (ほ) 穂積亮次、堀香奈美 (ま) Mai Văn Hào、馬杉栄一、松岡弘、松原許子、松本國男、眞山静子、真弓忠 (み) 水田誠、湊勝昭、三代沢史子 (む) 村田進、村山富市 (も) 本村博志、森尾正照 (や) 安川隆子、柳瀬修三、山川民子、山口憲明、山田真美子、山田守一、山本章治 (よ) 米田康三、米長泰、米満良暢 (り) Liên Hoa、劉錫江、林登居・ヒサ子 (れ) Lê Bá Phúc、Lê Ngọc Thảo、Lê Văn Hiến、Lê Văn Tâm、匿名希望1名 以上



## しょうがくきんじょうほう 奨学金情報

※ 奨学金情報は Japan Study Support のホームページよりご覧いただけます (<http://www.jpss.jp/ja/>)

### ■ 公益財団法人 佐藤陽国際奨学財団 私費留学奨学生 (春募集)

**対象:** ①バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、モルディブ、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナムから来日し、文部科学省所轄の大学の学部または大学院に在籍する当該国の国籍を有する私費留学生

②国際理解と親善に関心を持ち、財団の交流会に必ず出席できる者

③他の奨学支援団体等から奨学金に類する金品を受給していない者 (研究助成金などを受給している場合は事前に事務局に問い合わせること。貸与奨学金については応募可) 応募時に他の団体から奨学金又は奨学金に類する金品を受給している場合であっても、当財団の奨学金支給開始時 (2019年4月) に、他の団体からの支給が終了している場合には、応募可能です。

④在留資格「留学: college student」を有する者

⑤日本で就業している親がいない者

⑥「博士」の学位を取得していない者

⑦2019年4月の新しい1年生と新編入生である者

⑧勉強・研究に支障のない日本語能力を有する者

⑨当財団の奨学生を終了後、同窓生として交流活動に積極的に協力できる者

給付金額: (学部学生) 月額 15万円、

(大学院生) 月額 18万円 (この他に学会出席補助金制度あり)

給付期間: 2019年4月から2021年3月までの2年間

(博士後期課程採用者については、課程修了までの期間。ただし、支給期間中、定期的に選考委員会による中間審査を行い、標準年限内に博士号の取得が困難と判断された場合は、支給を停止することがある。)

募集人数: 若干名

応募方法: 在籍する大学の留学生課を窓口として、応募書類を募集期間内に留学生課から当財団宛に郵送にて提出すること。

募集期間: 1月9日 (水) 消印有効

団体連絡先: 〒153-0064 東京都目黒区下目黒

1-7-1 公益財団法人佐藤陽国際奨学財団事務局

☎ 03-5487-2775

URL <http://www.sisf.or.jp>

だいじゅうろっかいこくさいこうりゅうふゆ ふゆ ほっかいどう ゆきたいけん さんかりゅうがくせいほしゅう  
**「第16回国際交流冬のつどい ～冬の北海道 雪体験プログラム」参加留学生募集**

●**内容** さっぽろゆきけん けんがく ぶんかこうりゅう しやうわしんざん むりよう  
 こおり うえ つ たいけん  
 氷の上での釣り体験

●**日程** 2019年2月5日(火)～2月10日(日) 5泊6日

①フリープラン(北海道までの交通手段は自分で手配) 48,000円

②羽田プラン(羽田空港発着の往復航空券付き) 68,000円

2.8～2.10の宿泊は＜日本人家庭にホームステイ＞or＜日本人大学生と合宿＞から選択

●**募集人数** 40名

●**応募締切り** 2019年1月4日(金)(ただし、定員になり次第締切り)

●**応募方法** WEBサイトにてご確認ください → [www.hif.or.jp](http://www.hif.or.jp)

●**主催・問合せ先** 一般財団法人 北海道国際交流センター

北海道函館市元町14-1 ☎ 0138-22-0770 E-mail [tudoi@hif.or.jp](mailto:tudoi@hif.or.jp)

# MEMBERS

## 〈会費とご寄附の報告〉

2018年8月

### 特別会員

(1口)

来山 文泰 文京区  
 株式会社 InfoDeliver 港区

### 賛助会員

(1口)

昭和西川(株) 中央区  
 服部 泰子 豊田市

### 正会員

(1口)

荒川 雄彦 北杜市  
 山田 裕子 三鷹市  
 大杉 立 つくば市  
 山海 保 葛飾区  
 佐藤 正則 横浜市

平峯 克  
 小倉 美恵子  
 宮原 彬  
 外山 経子  
 坪井 健  
 稲垣 史  
 杉本 宏樹  
 (株) デリー  
 今泉 雅勝  
 数下 勝

### ご寄附

荒川 雄彦  
 河内山 康子  
 酒井 杏郎

川崎市  
 川崎市  
 朝霞市  
 八王子市  
 横浜市  
 足立区  
 杉並区  
 文京区  
 墨田区  
 千葉市

北杜市  
 千葉市  
 渋谷区

### 正会員

(1口)

曾根 文子 杉並区  
 鵜田 純一/由美 千葉市  
 寺尾 方孝/三枝子 国分寺市  
 代田 泰彦/ますよ 所沢市  
 土居 征夫 世田谷区  
 岩井 秀生 入間市

### ご寄附

松浦 秀嗣 国分寺市  
 深澤 のぞみ 金沢市  
 鵜田 純一/由美 千葉市

2018年9月

### 賛助会員

(1口)

亜細亜大学 武蔵野市

皆様の暖かい御支援に  
 感謝申し上げます



## ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人です。財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

## 協会のあらまし

名 称：公益財団法人アジア学生文化協会  
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 白石勝己

設 立：1957年（昭和32年）9月18日  
故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

## ◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

## ◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円  
賛助会員 1口 5万円  
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（十税）でお送りいたします。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税を負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

## 『アジアの友』発行回数変更のお知らせ

諸般の事情につき、2019 年度より本誌『アジアの友』は現在の年 6 回（隔月）発行から、年 4 回（季刊）の発行に変更させていただきます。定価は従来通り 1部500円（税別）です。

発行回数の変更に伴い、ご迷惑をおかけすることになりますが、今後とも引き続きご高配賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、変更後の年間購読料等詳細につきましては、別途ご案内させていただきます。

## 後 記

有志の方々の実行委員会により「工藤さんを偲ぶ会」が11月10日に開催されました。同時に、今年新しく建替わった「新星学寮の内覧会」を同じ日に開催いたしました。実は、昨年末で寮に20年以上住まわれ寮の代表もされていた工藤さんが、病に倒れた後にもかかわらず老朽化した新星学寮の建替えを寮友に呼びかけ、執念をもって建替えにこぎつけたにもかかわらず、完成した新星学寮を見ることなく旅立たれました。そこで、これまで、工藤さんとともに議論してきた寮友の間で、自ずと偲ぶ会とお披露目会を同じ日に行おうということになりました。従いまして、偲ぶ会の会場は新星学寮の近くとなり、会場の関係もあり、ご案内を出した方々も限られてしまいました。工藤さんと親しくしていた方でご連絡の届かなかった方にはこの場をお借りしてお詫び申し上げる次第です。

20数年ぶりで会う鈴木妙さんに、日本留学から今日までのお話を伺った。学者ということもあり詳細に多岐にわたる話となり、初めて知ること多かつた。帰国後、原稿をチェックしている中で、実は、今年日本政府から旭日中綬章を受けたという話が出てきた。受勲は「ブラジルにおける日本語教育及び日本文学・日本文化の普及を通じた対日理解の促進に寄与」ということだった。鈴木さんのお話はまさにそうだった。改めて、留学生の役割の重要性を認識すると同時に大変タイムリーに話が聞けたと思った。(F)

## アジアの友 2018 年 10 - 11 月号

2018 年 11 月 20 日発行（通刊第535号）

年間購読（送料共）3,000円＋税 1部 500円＋税

発行人 白石勝己

編集 アジアの友編集部

発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)

電話番号：03-3946-4121

ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754

E-mail: tomo@abk.or.jp

ホームページ：(<http://www.abk.or.jp/>)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION  
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: <http://www.abk.or.jp/>

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。

# アジア文化会館（ABK）入館学生特別募集

アジア文化会館は、公益財団法人アジア学生文化協会によって 1960 年に創設されました。アジア、アフリカ、ラテンアメリカからの留学生と日本人学生が、月例会（原則第一金曜日夜）等によって自治的共同生活を運営し、それを通じて人間形成と国を超えた友情育成に努めています。また、都営三田線「千石」駅より徒歩 3 分に位置し、各大学へのアクセスにも優れています。この度、下記の通り入館学生の募集を行いますので、是非お申込み下さい。

## 申込資格 次の 4 項の全てに該当する方

- a. アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国からの留学生及び日本人学生
- b. 日本国内の大学、大学院、短期大学、専門学校に在籍する学生  
（日本語別科の学生、研究生、科目等履修生、聴講生等を除く）
- c. 共同生活の義務をお互いに果たし、自治の権利を発展させる生活に積極的に参加する意志がある学生
- d. 日本語でコミュニケーションができる学生

## 募集人数 若干名

## 選考日程 申込締切… 2019 年 1 月 31 日（木）必着

説明会・面接… 2 月 9 日（土）午後 1 時集合（時間厳守。開始前に施設見学あり）

決定通知… 2 月 15 日（金）頃メールで通知予定

## 経 費 部屋代 38,000 円／月（冷暖房、水道光熱費、インターネットを含む）

入館料 70,000 円（返還しません）

月例会費 4,000 円／年（主に食事代。500 円／月 × 8 回）

## 設 備 [個室] ベッド、机、椅子、室内照明、電話機（受信専用）、エアコン、クローゼット、本棚、インターネット（Wi-Fi）[共用] 自炊室、トイレ、洗面所、シャワー、コインランドリー、卓球場

## 申込方法 申込方法および詳細は会館ホームページにてご確認ください。

アジア文化会館住所 東京都文京区本駒込 2-12-13（都営三田線「千石」駅徒歩 3 分）

Tel 03-3946-4121 E-mail kaikan@abk.or.jp URL www.abk-dorm.jp

# 新星学寮 入寮学生募集

新星学寮は、長い歴史を持つ学生寮です。アジア諸国・日本の各界で数多くの先輩が活躍しています。学寮ではアジアからの留学生と日本人学生が、自主平等の立場で自治的共同生活の運営（寮会、食事会、清掃、勉強会、寮祭、旅行会他）を通じて、相互理解を深め、お互いの人間形成と国を超えた友情を育むことを目指してきました。この度、寮友（OB・OG 等）並びに支援者からのご寄附もいただき、新しい建物が完成しました。再スタートにあたり最初の寮生の募集を行います。当寮の伝統を受け継ぎ、アジアの友情の輪をさらに広める志ある学生の応募をお待ちしています。なお、新星学寮は現（公財）アジア学生文化協会の母体となった寮です。

## 寮 費 40,000 円／月（含、水道光熱費、インターネット代）

## 応募締切 2019 年 1 月 15 日（火）

## 面接・説明会 2019 年 1 月 19 日（土）13 時～

## 応募方法 新星学寮・募集要項詳細は下記のホームページからご覧ください。

[www.abk-dorm.jp](http://www.abk-dorm.jp)